

# 法遍寺 から大切な 皆様へ

2024年1月1日

日蓮正宗 年間方針

折伏前進の年

法遍寺・天晴寺支部活動方針

講中一結・万難を排して

折伏実践

年間実践テーマ

① 勤行・唱題で歡喜の活動

根本を欠かさず家族

そろって弛まず実践

② 講中一結して折伏実践

「異体同心」・「師弟相對」

の信心で

広宣流布に邁進

③ 支部総登山と寺院参詣

で人材育成

死身弘法の決意と歡喜

の生活・切磋琢磨

しながら家庭訪問

〒488-0881

愛知県尾張旭市城山町三ツ池6075-1

(電話番号：0561-54-9226)

相談無料 <https://hohenji.net/>

2023年12月10日 御報恩御講の様子



慧光山 法遍寺(えこうざん ほうへんじ)について 住職 近藤道正

法遍寺は、静岡県富士宮市にある「多宝富士大日蓮華山大石寺」を総本山とする日蓮正宗の寺院です。日蓮大聖人様の正しき信仰を人々に弘め、ここ愛知地域の全ての人々が真の幸せをつかむ為に、総本山第67世日頭上人が開基となって、昭和57年6月18日法遍院として設立され、平成20年12月23日には改築され、法遍寺となりました。日蓮大聖人様の出世の本懐である三大秘法の御本尊に帰依(きえ)し、破邪顕正の布教活動をさせていただいております。

## ① 講中のみなさまへ「真心の唱題で仏の慈悲に報いる境界を築く」

人は褒められるような功績があるとつい有頂天になる。大聖人はご自身には「三度のこうみょう(高名)あり」(御書867)と仰せになった。このお言葉は、三度にわたる国家諫暁にて、幕府の内乱や蒙古襲来などをすべての的中させたことをさす。これは単なる予言ではない。三世を通暁する御本仏の智慧による警告である。寿量品の最後に、「仏はつねにこの念いにある。生あるものをいかにして無上の仏道に入らしめ、仏身を得せしめようかと」とある。仏の智慧は衆生を成仏に導く慈悲の「念い」である。迷う私たちにそのお心を「高名」と宣告されたのである。報いを求めようとする心や、自己の功績を誇る心など、いらぬ執着を離れて御本尊に給仕・供養申し上げる、その真心の中に仏は住む。今月の唱題月間、真心からの唱題に徹し、仏の慈悲に報いるべく人々をこの信心に導こう。

## ② 創価学会に籍を置くみなさまへ(創価学会破門の経緯を知らない方へ その41)

前号に続き「創価学会破門通告書」の『第三 創価学会の信仰上の違背』を掲載。  
(三)創価学会は、本来、本宗を外護し、広宣流布へ邁進すべき立場にあります。ところが、実際、学会員は、その外護の任を果たさないどころか、僧侶に対して、信徒にあるまじき悪質な嫌がらせをし、寺院における法筵の場を乱し、果ては徒党を組んで暴力事件を引き起こすなど、僧侶の布教を妨げております。これは、甚だもって許すべからざる布教妨害行為であり、大謗法であります。

### 第四 創価学会の宗教法人としての逸脱

このように、大謗法団体と化した創価学会は、宗教法人法に定める法人としてもまた、到底、認められない団体となっております。

(一)創価学会は、現在、日蓮正宗を外護する信徒団体から、逆に日蓮正宗に敵対する大謗法団体へと変質・変貌してしまいました。しかも、先に述べたごとく、三原則遵守の確約を完全に破棄して、その存立の目的も基盤も、ことごとく失ってしまったのであります。

(二)「創価学会解散勧告書」に指摘したとおり、創価学会における、たび重なる巨額の金銭不祥事にまつわる社会的不正・疑惑事件は、創価学会自体が、宗教法人としての資質や責任を厳しく問われる、反社会的実態を露呈したものであります。これは、同時に、本宗の社会的信用に著しく傷を付け、広宣流布への大きな障害となっております。しかも、毎年行なわれる財務では、多額の寄付を集めて、実際に本宗信徒の生活を苦しめ、窮地に追いやっている事例も少なくありません。このような創価学会の実態は、本宗信仰の信条はもとより、宗教団体の目的からも著しく逸脱するものであると断じます。

(次号に続く。「正しい信仰」の項はしばらくお休みとなります)